

地域資源としての美術館を活かした 新しい学びのかたち

—「おさんぽ美術館」で見えてきた
子どもの姿と教育現場への示唆—



2026年 8月7日(金) 15:00~17:00

本企画は、大原美術館が実施する未就学児を対象とした鑑賞プログラム「おさんぽ美術館」をもとに、実践の中で見えてきた子どもの姿や学びについて共有する、報告・意見交換の場です。当日は、「おさんぽ美術館」に参加した保育者へのアンケート結果や関連する研究の知見もふまえながら、幼児期の美術鑑賞が子どもの育ちにどのようにつながるのかを探ります。

あわせて幼児期から小学校教育へとつながる学びのあり方や、地域資源としての美術館をどのように活かしていけるのかを考える機会とします。

登壇者

佐藤 晶子

[駒沢女子短期大学 保育科 教授]

宮本 友弘

[東北大学 教授]

寺元 静香

[公益財団法人 大原芸術財団
研究員・エデュケーター]

対象者

保育・教育に携わる方
(保育者、小学校教員など)

参加費

無料

会場

児島虎次郎記念館 (大原美術館)
〒710-0054 岡山県倉敷市本町3-1

▼ 申込はこちら



締切：7月31日(金)

※定員に達し次第
締切ります。

お問合せ

公益財団法人 大原芸術財団 〒710-8575 岡山県倉敷市中央1-1-15 TEL:086-422-0005

2026年

8月7日 (金) 15:00~17:00
(14:45開場)

01 【実践報告】

大原美術館の未就学児を対象とした
鑑賞プログラムについて

寺元 静香 [公益財団法人大原芸術財団
研究員・エドゥケーター]

02 【研究報告】

幼児期における美術鑑賞に関する実証的研究
—対話型鑑賞に着目して—

佐藤 晶子 [駒沢女子短期大学 保育科 教授]

03 【総括】

研究と実践、美術館の可能性について

宮本 友弘 [東北大学 教授]

おさんぽ美術館とは？

「おさんぽ美術館」は、大原美術館が1993年から30年以上にわたり継続している、倉敷市を中心とした保育園・幼稚園・こども園の年長児（5歳児）を対象とした鑑賞プログラムです。

子どもたちは美術館を複数回訪れ、継続的に鑑賞体験を重ねていきます。美術作品に触れることで、美術や美術館を身近に感じるとともに、柔軟で豊かな感性や人間性を育むことを目指しています。なお、2025年度は27園が参加し、延べ約2,000人の園児がプログラムを体験しています。

